



西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

5月号

【平成29年度全国学力・学習状況調査の出題から見える指導のポイント】 （小学校 国語）

目的や意図に応じて伝えたいことを的確に話す力をつける！

速報

小学校国語Bでは、日常で直面する場面の中で、学んだ知識を実際に活用する力が身についているかを確認する問題が多く出題されました。本号では、「聞くこと・話すこと」についての具体的な取組の一つとして、付箋の特徴や色を生かしたスピーチメモの活用について紹介しています。小学校のみならず、中学校国語科の単元においても取り上げられている内容ですし、日常のスピーチ作成等にも活用できる取組です。

【平成29年度全国学力・学習状況調査の出題から見える指導のポイント】 （小学校 算数）

数量関係「計算の順序についてのきまりなどを理解すること」

速報

小学校算数Aでは、基礎的な知識・技能の定着を確認する問題が幅広く出題されました。本号では、四則計算の問題を取り上げ、小学校から中学校までの指導の留意事項やステップについて考えています。小学校4年生で初めて学習する「計算の順序についてのきまり」から、継続的に指導することが児童生徒の確実な定着につながります。校内及び中学校区における指導のつながりや重点事項の確認資料として御活用ください。

全ての子供にとって居心地のよい学校づくり ～スクールカウンセラーとの連携～

4月13日にスクールカウンセラー連絡協議会を開催しました。本号では、スクールカウンセラーと学校の連携をさらに深めるために、個別の相談業務の充実に留まらない、全ての子供の日常生活への対応を目指した取組について考えています。本号で紹介している「心理教育プログラム」については、連絡協議会以降、複数の学校で取組が進められていると伺っております。スクールカウンセラー事業の次の一手を考える際の資料として御活用ください。

本年度の小学校算数A問題2(3)は、平成19年度と全く同じ問題でした。四則計算については、平成19年度以降も継続して出題されているように、つまりきやすく、指導改善が求められている内容の一つです。小学校4年生で【計算の順序】のきまりを学習して以降、中学校1年生になるまで、このきまりを確認する場面がほとんどないことが、低い正答率の原因の一つであると考えます。

H29 小学校算数 A2(3)

$$6 + 0.5 \times 2$$

【計算の順序】 <算数4年上 P97>

☆ふつう、左から順にします。

☆ () があるときは、() の中をさきにします。

☆ +、- と ×、÷ とでは、×、÷ をさきにします。

H19 $6 + 0.5 \times 2$ (全国正答率 69.1%)
H20 $3 + 2 \times 4$ (全国正答率 71.1%)
H21 $80 - 30 \div 5$ (全国正答率 67.0%) 等



平成19年度の結果を振り返ると、左から順に計算して、13と答えた誤答が13.3%ありました。

<ポイント1>

具体的な場面に対応した立式を基に、四則計算の【計算の順序】について理解する。

例(算数4年上;教科書P96③ア)

1冊90円のノートを買って500円出した時のおつり

$$\text{式 } 500 - (90 \times 4) \Rightarrow 500 - 90 \times 4$$

例(算数4年上;教科書P96③イ)

300円の筆箱と、1ダースが480円の鉛筆を半ダース買ったときの代金

$$\text{式 } 300 + (480 \div 2) \Rightarrow 300 + 480 \div 2$$

例(算数4年上;教科書P96③ウ)

1個120円の絵の具を4個と、1本150円の筆を3本買ったときの代金

$$\text{式 } (120 \times 4) + (150 \times 3) \Rightarrow 120 \times 4 + 150 \times 3$$

『かけ算やわり算はひとまとまりとみて () を省くことができるんですよ。』



- ・小学校4年生で初めて【計算の順序】を学習しますが、全国正答率が示す通り、定着については課題が見られます。
- ・また、小学校4年生～中学校1年生へと進む中で、再確認する場面はどこなのでしょうか。

<ポイント2>

四則計算を含む立式や計算問題について、【計算の順序】を振り返ることができる場面を設定し、その定着を図る。

(算数5年;教科書P39⑥の①)

$$\text{① } 0.2 \times 0.3$$

②

$$0.1 + 0.2 \times 0.3$$

ここがポイント

(算数6年;教科書P45②の①)

$$\text{③ } \frac{1}{2} \times \frac{2}{3}$$

④

$$1 - \frac{1}{2} \times \frac{2}{3}$$

教科書では①や③の計算の定着を目標としていますが、②や④のように問題を発展的に扱うことで、小数や分数に拡張されたときにも、【計算の順序】は成立します。そのことをその都度、確認することが大切です。

中学校1年生では、正の数・負の数の四則計算で【計算の順序】の確実な定着を図ります。小学校での学びは、中学校へとつながります。

H29 中学校 数学 A1(3)

$$10 - 6 \div (-2)$$

中学校 数学1年 教科書P60(問7)

$$500 - a \times 4 \Rightarrow 500 - 4a$$

算数4年下の「面積」、「小数のかけ算・わり算」、算数5年の「体積」、「小数×小数、小数÷小数」、「分数のかけ算・わり算」等でも、意図的に【計算の順序】を確認する場面を設定することが大切です。また、中学校1年生で負の数を学習した時も、【計算の順序】を確認し、それらが文字式の表し方にもつながっていきます。中学校区の先生方で、上記の内容等を共通理解することで、子供の困り感解消につながります。



全ての子供にとって居心地のよい学校づくり ～スクールカウンセラーとの連携～

第1回スクールカウンセラー連絡協議会において、チーム学校の一員であるスクールカウンセラーとの連携について協議しました。

初期対応・自立支援

スクールカウンセラーとの連携 STEP 1

教育相談担当とスクールカウンセラーで情報を共有し、初期対応・自立支援の取組を進める！



教育相談担当

気になる子供や保護者については、スクールカウンセラーにつなぎ、早期に対応できるようにしています。カウンセリング後には、学校として「今後、誰が、どのように対応するのか」等を協議しています。

【例】カウンセリング終了後、その日のうちに情報共有する時間を設定する。

- ◆教育相談担当を通じて、学校長が対応や状況を把握できるようにする。
- ◆内容によっては、担任や学年主任、養護教諭等も同席し、今後の対応について検討する。
- ◆次回、スクールカウンセラーが来校した時に、事後の対応や子供・保護者の様子について教育相談担当が情報提供する。

※初期対応を確実にを行うためのポイントは、「お役立ち情報 平成29年1月号」にもまとめていますので、参考にしてください。

一方で、こんな声も…

《教育相談担当のつぶやき》

「教育相談だより」で、スクールカウンセラーの来校日を子供や保護者に伝えているけれど、相談者が少ない日もあります。個別相談以外にもスクールカウンセラーを活用できないだろうか…。

《スクールカウンセラーのつぶやき》

それぞれの学校で、相談業務に取り組んでいるけれど、個別相談以外にも、学校の一員として、先生や子供、保護者の力になりたいわ…。

次へのステップアップ!!

全ての子供の
日常生活への対応

スクールカウンセラーとの連携 STEP 2

スクールカウンセラーの専門性を活かして、気になる子供・心配な子供を含む、全ての子供の日常に目を向けた取組を進める！

＜実際の取組例＞

- ◆休憩時間や給食時間等、スクールカウンセラーと児童生徒と一緒に過ごす時間・場を設定する。
- ◆児童生徒相互の関係性、集団の状態等についてのアセスメント（評価）を依頼し、よりよい学級づくりに必要な取組についてアドバイスをもらう。

- ◆実際の授業や教室掲示を見てもらい、障がいのある児童生徒に関する支援等についてアドバイスをもらう。
- ◆教職員のカウンセリング能力向上のための校内研修を実施する。

- ◆生徒会活動での活用例「心理教育プログラム」
委員会活動の中で、スクールカウンセラーによるリラクゼーション講習を実施する。それを受けた委員会の生徒が、自分の学級で研修会を実施する。



全ての子供にとって居心地のよい学校づくりへ

学校内連携の構築から、新たな問題を生まない学校づくりへ

(生徒指導担当・主事、養護教諭、特別支援教育主任等との連携の強化)

“個別対応”だけでなく、スクールカウンセラーや関係機関等と協働し、新たな問題行動や不登校を生まない土壌づくりを進めましょう！